



山梨県 健康管理事業団

今月の主な内容

だより

平成19年6・7月号



- ・健康管理事業団 事務所のリニューアルオープン
- ・肺がん検診・ガイドラインにそった検診の重要性
- ・季節の健康管理 (夏の救急)
- ・結核・がん予防・ほっと情報
(日本対がん協会創立50周年)

発行：財団法人山梨県健康管理事業団
〒400-0034 甲府市宝1丁目4-16
TEL：055-225-2800 FAX：055-225-2809

5月30日 事業団事務所のリニューアル工事が完了しました。 ～健診・保健指導の充実に向けて～

○ 山梨県健康管理事業団は、昭和58年に日本対がん協会山梨県支部、結核予防会山梨県支部など3団体が統合されスタートして以来、住民検診を通じて県民の健康保持増進に貢献してきました。

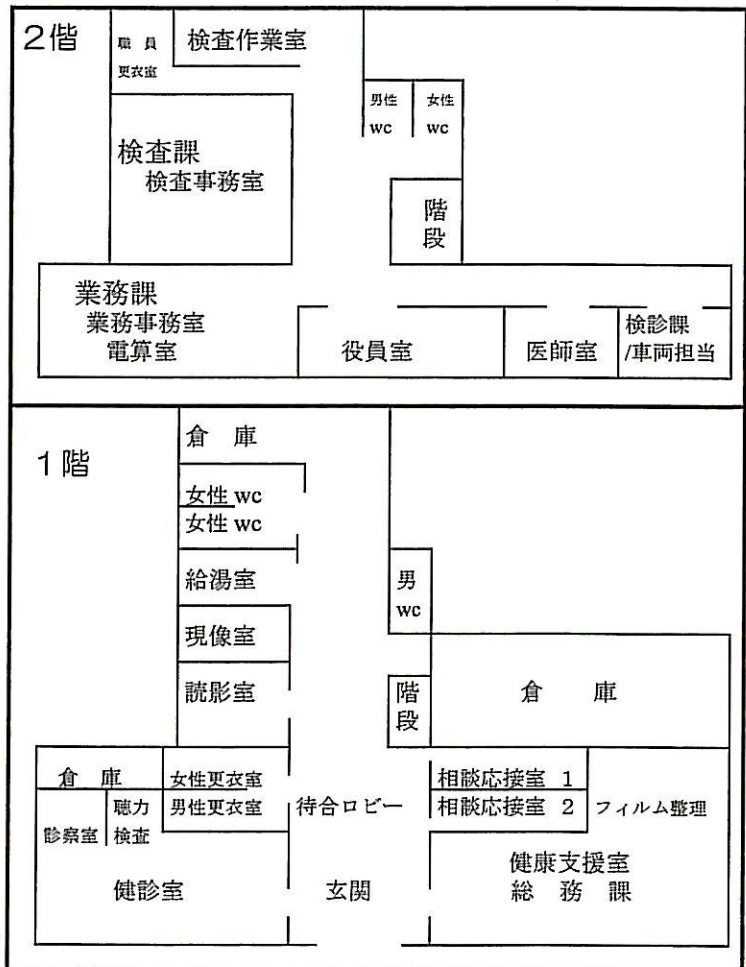
この度、平成19年度に政府管掌健康保険の健診実施医療機関の選定を受けたことから、民間事業所職員の方々などが、事業団で健診が受けられるよう健診会場等の改修工事を進め、5月末に完成しました。さらに、エイズ財団と協力するなかで、エイズ検査等の取り組みをしていくため、相談室の整備も行いました。



・新装なった看板を設置する大久保理事長と仙洞田常務理事



・整備した健診室で行われた改修工事竣工式



講演会開催

肺がん検診・ガイドラインにそった検診の重要性

山梨県成人病検診指導協議会 肺癌部会部会長

飯富病院 院長 長田忠孝先生



○5月16日 健康管理事業団では、ベルクラシック甲府において講演会「肺がん検診はどのようにすべきか・ガイドラインにそった検診を」を行いました。

講演は組合立飯富病院院長長田忠孝先生にお願いしました。長田先生が山梨県においてになった1982年（昭和57年）頃には、肺がん検診はどここの市町村でもおこなわれてはいなかったこと、しかし、長田先生が検診の方法や必要性など、市町村の担当課長さん方に説明すると、そのことに理解を示して、いち早く肺がん検診に取り組みされた市町村の事例などを話されました。

○肺がん検診を県民に正しく理解していただき、できるだけ多くの方が検診を受けることができるようにするためにも、平成18年度 厚生労働省がん研究助成金により、「有効性評価に基づく肺がん検診ガイドライン」が発刊されたことは大変喜ばしいことであるとのことです。

○このガイドラインを活用し、そのとおりに検診をしてほしい、そのことが非常に小さいがんも発見することにつながり、不幸な事例を生まないことになると、長田先生の肺がんから命を守る取り組みの思いが強く伝わるご講演でした。



《講演内容の一部を紹介します》

山梨県では

- ・ 肺がんの死亡数は死因の1位で増加している。
- ・ 肺がんは60歳以上に発生しやすく、ピークは65歳から79歳にある。
- ・ 39歳より若い年代には肺がん発生は少ない。
- ・ 肺がんには扁平上皮がん、腺がん、未分化がん(小細胞がん、大細胞がん)、その他がある。
- ・ 喫煙と関係あるのは扁平上皮がんと未分化がん。
- ・ 肺門部発生の扁平上皮がんは約15%。

・ 自覚症状で受診すると臨床病期はIV期が最も多く41%。

“ほとんどが治りません”

・ 検診ドックで受診するとI期が45%。

“みなさん 検診ドックで肺がんを見つけましょう”



○ 結びとして

市町村は厚生労働省と日本肺癌学会の肺がん検診の手引きにもとづき肺がん検診を実施すべきであること、肺がんの予防についての指導、特にたばこ対策をすべきであること、がん登録により肺がんの罹患率、受療状況の把握、生存率の測定ができ、市町村別の肺がん検診の精度管理への応用が期待できること、市町村及び各事業所は結核検診及び労働安全衛生法による胸部エックス線検査も肺がん検診に準じて実施したほうが良い、と話されました。

《夏の救急》

おぼえておきたい夏の救急

高齢者は要注意 熱中症

夏は「熱中症」に注意が必要です。特にお年寄りは、室内にいる時など、日常生活の中でも熱中症を起こしやすく、しかも症状が重くなりがちです。暑いときに、少しでも体調がおかしいと感じたら、早めに対処することが大切です。

症状： I 度 めまい、立ちくらみ、こむら返り
 II 度 頭痛、吐き気、嘔吐、倦怠感
 III 度 ふうふうする、立てない、意識障害

対処： I 度 II・III 度

- ・熱中症が屋外で起きた場合は風通しの良い日陰などの涼しい場所に移動します。
- ・室内の場合は、窓を開けて中の熱した空気と外気を入れ替えたり、エアコンを使って室温を下げます。
- ・冷水や氷などを使って首すじなどを冷やします。スポーツドリンクなどで水分と塩分を補給します。水を飲み、梅干しを食べても良いでしょう。



- ・医療機関の受診が必要です。特にIII度では、必ず救急車を呼びます。救急車を待つ間に、患者さんを涼しい場所に移します。
- ・屋内の場合は換気したり、エアコンを使って室温を下げ、衣服を脱がせたり、緩めたりして、患者さんを寝かせます。
- ・意識がない場合は吐いたものがのどや気管に詰まらないように顔を横向きにします。冷水や氷を使って体を冷やします。首筋、わきの下、足の付け根、膝の裏など皮膚の近くを太い動脈が通っている部分を冷やすと効果的です。
- ・患者さんに意識があって飲み込むことができる場合は、スポーツドリンクなどを飲ませて、水分や塩分を補給します。



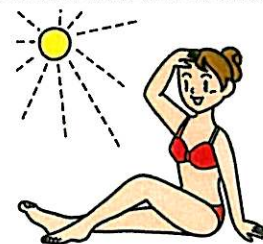
= NHK テレビテキスト きょうの健康 NO 7 より抜粋 =

夏は虫刺されなどにもご注意ください!!!



健康管理で

夏をさわやかにすごしましょう!!!



○ 保健、医療をめぐる最近の話題

* 日本動脈硬化学会が新たなガイドラインを公表

* 「高脂血症」の名称を改め「脂質異常症」に。

* 脂質異常症の診断基準（空腹時採血）

高 LDL コレステロール血症	LDL コレステロール	>	140mg/dl
		=	
低 HDL コレステロール血症	HDL コレステロール	<	40mg/dl
高トリグリセライド血症	トリグリセライド	>	150mg/dl
		=	

=ヘルスアップ 21 2007.7 より=

今回は
「日本対がん協会創立50周年記念事業」を取り上げました。
 《6月14日全国支部事務局長会議資料より》

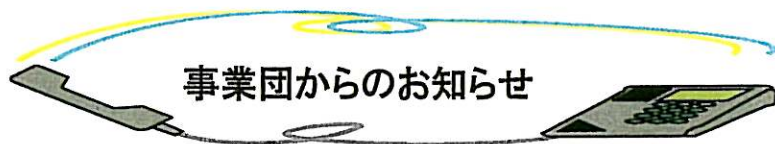
★★ 2008年8月に創立50周年を迎える日本対がん協会 ★★

民間のがん征圧団体として、「がんの知識の普及」、「検診の推進」を中心に活動を展開してきたが、がんをめぐる環境の変化は激しく、対がん活動も転換期を迎えている。50周年を機にこれまでの歩みを検証するとともに、今後の方向性や08年へ向けての記念事業について、検討委員会で検討を行った。その結果、今後の方向性として、知識の普及、検診の推進に加え、患者支援を中心とするがんサポートセンター的な役割を持つことの重要性が確認された。

50周年記念事業については、がん相談「ホットライン」の拡充、受診率向上委員会の設置、がん検診白書の発行、情報発信機能の強化などの提案がされ、08年までのアクションプランにまとめて順次実行していくこととなっている。

* 日本対がん協会の「検診・受診率向上委員会」第1回会議録に、こんな意見がありました *

- 関心のある人は啓発に反応するが、関心のない人に意識をもたせることができなければ、受診率向上につながらない。
- 全世界に検診日程を記したカレンダーを配布したり、誕生日に受診券を贈っている市町村は受診率が高い。
- スーパーの従業員の乳がん検診をしたら、店頭でお客さんに乳がん検診を勧める従業員が何人もいた。草の根で輪を広げていく努力が必要。



○ 7月からエイズの即日検査の受け付けを開始しました。

・山梨県健康管理事業団では本年7月より、平日夜間、休日にHIV抗体検査(エイズ検査)の即日検査を実施します。検査をご希望の方は匿名、無料で受けられます。(ただし、感染が考えられる時期から3ヶ月以上経過した人)

・検査日の日程表を参照し、必ず電話で予約してください。完全予約制です。

予約受付時間：午後1時～5時(土・日を除く)

予約ダイヤル：055-244-5555

検査場所：山梨県健康管理事業団 甲府市宝1丁目4-16

予約した日時に山梨県健康管理事業団までお越しください。

検査は採血して行います。1時間ほどかかります。

★ 検査日

7月	21日(土)	22日(日)
8月	5日(日)	25日(土)
9月	8日(土)	30日(日)

★ 検査時間

土曜日：14:00～19:00

日曜日：13:00～18:00

★ 10月以降の日程につきましては、山梨県健康管理事業団のホームページをご覧ください。10月以降は平日夜間も予定しております。(平日 16:00～19:00)

<http://www.y-kenkou.or.jp>